

(2)他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

「多様な情報を活用して 協働的に学ぶ」

⇒協働的な学習を有効に機能させ、
多様な情報を適切に活用させる

- ・情報交換や教師からの問い掛けを通して考えたり話し合ったりさせる
- ・情報を改めて見詰め直し、互いの発見の共通点や相違点に気付いたり、関連性を見付けたりさせる

「力を合わせたり 交流したりして 協働的に学ぶ」

⇒相手意識や仲間意識を育む

- ・一人でできないことも集団で実現できることは多いことを実感させる
- ・地域の大人などとの交流を通して、児童生徒の社会参画の意識を目覚めさせる
- ・力を合わせて取り組むことの大切さや地域社会に関わる喜びなどを実感させる

「異なる視点から考え 協働的に学ぶ」

⇒異なる視点を出し合い、検討させる

- ・収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして考えさせる
- ・調べた上で話し合い、異なる視点での意見を引き出す

「主体的かつ協働的に学ぶ」

⇒問題を自分のこととして受け止め、
よりよく解決させようとする

- ・協働的に学ぶ＝それぞれの個性を生かす
- ・それぞれの児童生徒なりに主体的に学ぶこと、協働的に学ぶことの良さを実感できるようにさせる
- ・協働性と主体性の両方をバランス良く意識させる

協働的に取り組むことが、児童生徒の学習の質を高め、探究的な学習を実現することにつながるんだ！



「探究的な学習 教師の3つのアクション」を取り入れた校内研修会の例

「つかむ」「みがく」を主なねらいとした場合

- 1 「探究的な学習の指導のポイント」について情報共有
- 2 ワークショップ
「探究的な学習の指導のポイント」を踏まえて単元構想
※過程(課題の設定、情報の収集など)ごとに分けて実施してもよい
- 3 構想の共有

「つかむ」「はしる」を主なねらいとした場合

- 1 「探究的な学習の指導のポイント」について情報共有
- 2 ワークショップ
児童生徒が実際に収集した情報を基に、どのような整理・分析が展開されていくかを想定し、指導の方向性や効果的な思考ツールなどについて意見交換
- 3 意見の共有